

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.104をお届けいたします。

6月のTOPICS



■ 家族性高コレステロール血症患者の内皮機能改善(最大許容脂質低下療法+ PCSK-9 阻害剤)

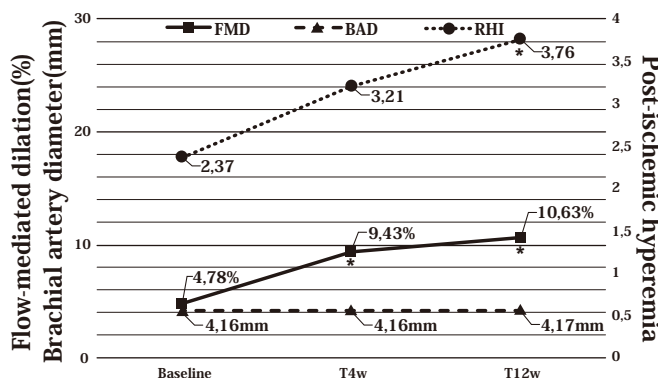
2024年7月6日、7日に開催される日本動脈硬化学会において、株式会社ユネクスは新機能「筋肉分析機能」を搭載したFMD検査装置を展示させていただく予定です。今月号では、動脈硬化に関連した論文のご紹介をいたします。

高コレステロール血症患者のコレステロール値と心血管イベントを低下させる PCSK-9i による 12 週間の治療後の家族性高コレステロール血症 (FH) 患者における脂質プロファイル、酸化マーカー、および内皮機能の変化を評価した研究です。

対象： 家族性高コレステロール血症 (FH) 患者 25 名 (52% が男性、平均年齢 51.5 歳)。

方法： PCSK-9i による治療を開始する FH 患者 25 名を対象に、総コレステロール (TC)、低密度リポタンパク質コレステロール (LDL-C)、リポタンパク質 (a)(Lp(a))、低密度 LDL (LDL スコアで評価)、11- デヒドロトロンボキサン (11-TXB2)、8- イソプロスタグランジン-2 α (8-iso-PGF2 α)、血流依存性血管拡張反応 (FMD) および反応性充血指数 (RHI) を、PCSK-9i 治療開始前と 12 週間の治療後に評価しました。

結果： 12 週間の評価では、TC の中央値で 38%、LDL-C で 52%、Lp(a) で 7%、LDL スコアで 46% の減少が観察されました。これと並行して、11-TXB2 と 8-iso-PGF2 α はそれぞれ 18% と 17% の減少を示しました。FMD はベースライン時の 4.78% \pm 2.27 から 12 週後には 10.6% \pm 5.89 に変化し ($p < 0.001$)、RHI は 2.37 \pm 1.23 から 3.76 \pm 1.36 ($p < 0.001$) に変化しました。多変量解析では、潜在的な交絡因子を調整した後、LDL スコアの変化は、FMD ($\beta = -0.846$, $p = 0.015$) および 8-iso-PGF2 α ($\beta = 0.778$, $p = 0.012$) の変化の独立した予測因子であることが示されました。LDL 減少 (LDL スコアで評価) は、PCSK-9i で治療された FH 患者の酸化マーカーと内皮機能の変化に関連していることが示唆されました。



PCSK-9阻害剤治療中の、上腕動脈直径 (BAD)、血流依存性血管拡張反応 (FMD)、shear rate AUCによって表された反応性充血指数 (RHI) の変化

T4W: PCSK-9阻害剤による治療を開始してから4週間
T12W: PCSK-9阻害剤による治療を開始してから12週間
*: ベースライン値と比較した統計的に有意な変化

※LDLスコア: LDL 領域全体に対する sd-LDL 粒子の割合を計算
スコア値が高いほど sd-LDL 粒子含有量が高くなる

Thromb Res. 2020 Oct;194:229-236.

■ 学会展示会・セミナーのお知らせ

第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会

展示会

会期：2024年7月6日(土)・7日(日)
会場：神戸国際会議場 3F ラウンジ

展示会

会期：2024年7月19日(金)~21日(日)
会場：仙台国際センター 展示棟

第49回日本超音波検査学会学術集会

ランチョンセミナー

日時：2024年7月21日(日) 12:40
会場：仙台国際センター 第5会場

血管診療センターにおける血管内皮機能検査の役割と特徴

座長：松尾 汎 先生 医療法人 松尾クリニック理事長
演者：市来 正隆 先生 JR 仙台病院 血管診療センター長
血管診療技師 奥 亜沙美 先生による
最新機種FMD測定の実際